

近年の家畜衛生に関する国際協力について

○ 口蹄疫等防疫に関する日中韓等東アジア地域シンポジウム

- 2011年から毎年開催。
- 東アジア地域における口蹄疫等の発生拡大の防止に向けて情報交換。(2015年より、鳥インフルエンザも追加)

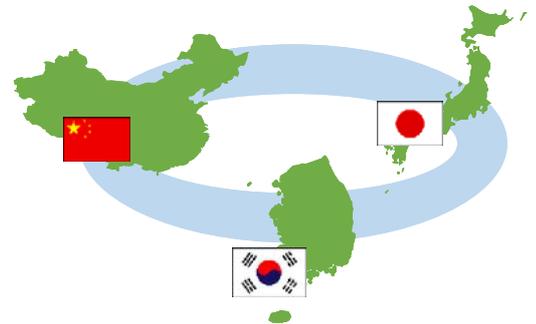


○ 越境性動物疾病への対応に関する協力覚書

- 2015年9月の第2回日中韓農業大臣会合(東京)で署名。

○ 国立獣医研究機関による協力のMOU締結

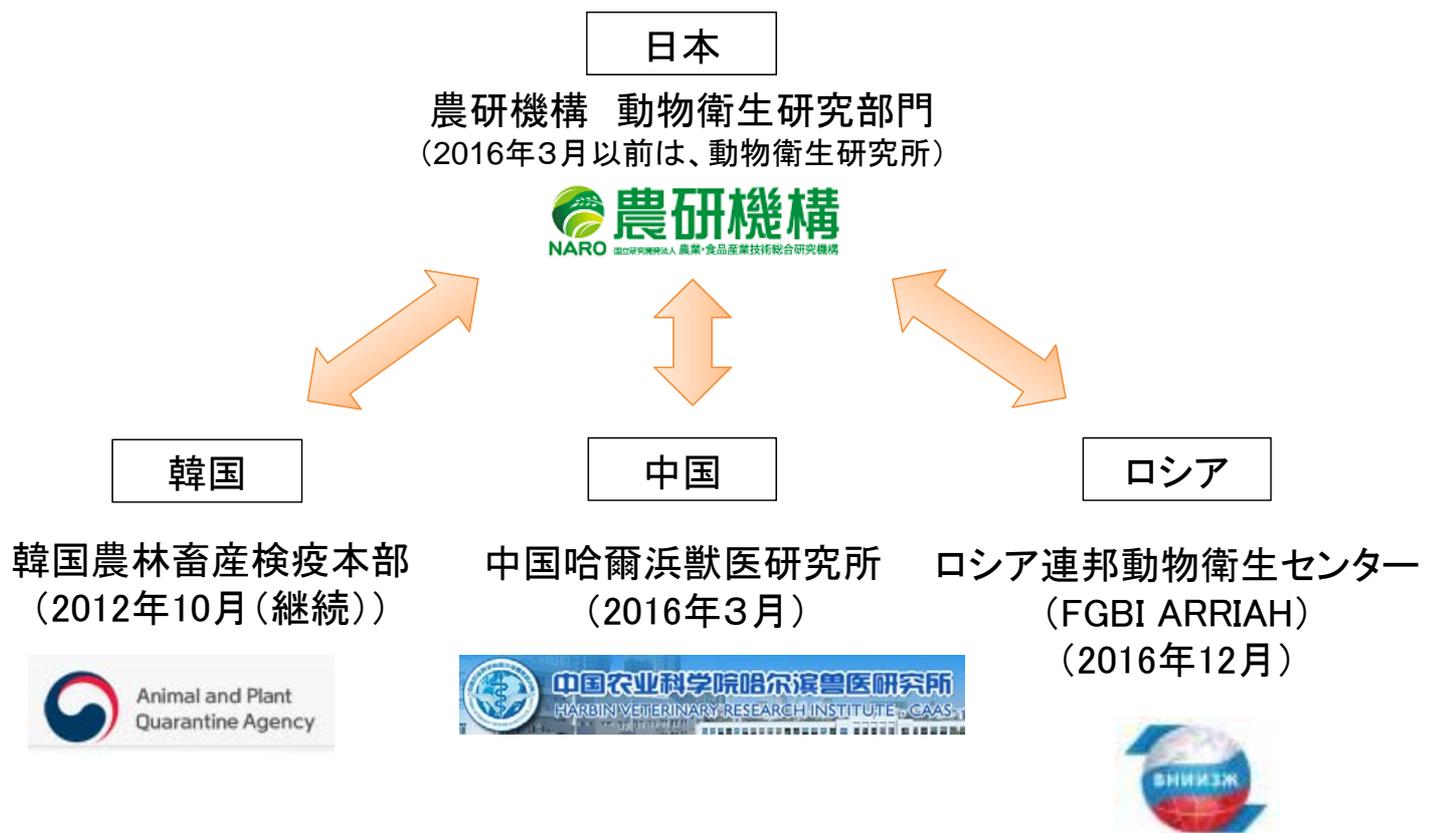
- 日本: 動物衛生研究所
- ⇔ 中国: 蘭州獣医研究所(2016年3月)
哈爾濱獣医研究所(2016年3月)
- ⇔ 韓国: 農林畜産検疫本部(2012年10月)



○ 技術会合の開催

- 日韓の当局間による疾病発生状況等の情報交換
2015年11月(韓国)、2016年6月(日本)など

近年の家畜衛生に関する国際協力について



G 7 獣医当局間の協力枠組み活動

G 7 新潟農業大臣会合宣言（2016年4月）

→越境性動物疾病、薬剤耐性対策等、公衆衛生・動物衛生分野における世界共通の課題に対処するため、G 7 各国の獣医当局間での協力枠組みを構築することを合意



- 2016年11月、農林水産省は、G 7 獣医当局間の協力枠組み活動の一環として、「第1回 G 7 首席獣医官フォーラム」を開催。
- （1）首席獣医官ワンヘルス・ワーキンググループの設置について合意
- （2）薬剤耐性及び越境性動物感染症に関する日本の取組の紹介及び意見交換の実施
 - ・薬剤耐性の課題について、検査機関間におけるネットワークの構築、G7共通の考え方を検討するための準備会合の開催について了解
 - ・口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザ等の越境性感染症について、発生時対応や日中韓での取組を紹介、G7以外の国も含めた情報共有、透明性の確保等の重要性について認識を共有
- サイドイベントとして「動物分野における薬剤耐性対策シンポジウム」を開催。
- 第2回G 7 首席獣医官フォーラムは、2017年のG 7 議長国であるイタリアで開催予定。
（次回フォーラムにおいて、鳥インフルエンザについて議題とする模様。）



フォーラムの様子



各国代表



OIEとの協力

OIE本部及び地域事務所の活動をサポート

○ アジア・太平洋地域における動物衛生の向上

- プロジェクトB：ワンヘルス、獣医組織
 - 例） - 動物インフルエンザ、狂犬病、人獣共通感染症に関する専門家会合、ワークショップ、フィールドワーク
 - リファレンスセンターによる研修・ワークショップ
- プロジェクトC：越境性動物疾病の対策、動物衛生の向上
 - 例） - 地域での研修、情報共有、GF-TADs事務局の活動支援
- プロジェクトI：運営管理
 - 例） - 各国フォーカルポイント向け地域セミナー、地域委員会に対する支援、地域の獣医組織の強化

○ OIE本部の活動への支援

- 日本人専門家の人的支援（1997年から）